

## SUKUMO 知的書評合戦 **ビブリオバトル**

日時：平成26年6月22日（日）14：00～16：52

場所：宿毛商工会議所3階会議室

主催：公益社団法人 宿毛青年会議所

内容：

○司会：中平隆善

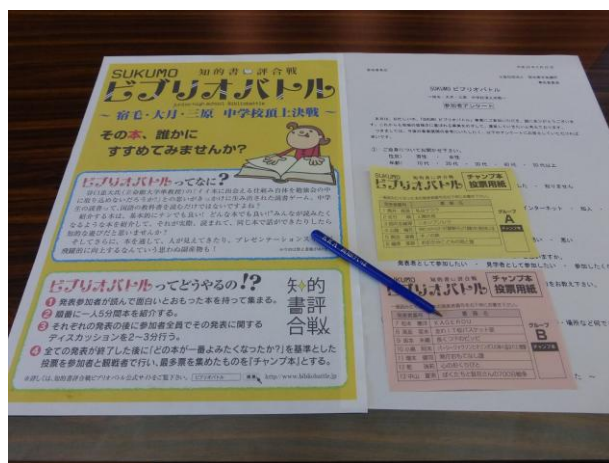
### 14:00～14:04 開会挨拶 宿毛青年会議所 理事長 矢野秀樹

- ・宿毛青年会議所は、20～40歳の宿毛市、三原村、大月町の青年の団体。
- ・各中学校の校長先生、教員、ご父兄のみなさまのご協力のもと、本日開催の運びとなった。ありがとうございます。
- ・青少年の育成、地域活性化に取り組んでおり、沖の島にキャンプ、図書への寄贈、市民際「宿毛祭り」の企画・運営にたずさわるなど、いろいろな活動をしている。
- ・ビブリオバトルとして中学生がプレゼンし、人に伝えることは難しいかも知れないが、少しでも次世代につながる事業をしたいと開催する。
- ・14名の生徒さん 自分たちで出来ることの良い機会にさせていただきたい。
- ・子供たちの発表を聞き、次に延ばせられるような取組としたい。



### 14:04～ ルール説明 委員長 高田綾

- ・おもしろいと思う本を1冊持ち寄り、おもしろいところ、この本に出会ったきっかけなどを5分間でプレゼン。
- ・その後2～3分の質問タイム。そのあとの講評につながるような質問をしてください。
- ・グループA、Bそれぞれのチャンプ本、審査委員長賞の3人を選ぶ。会場の参加者は1ポイント 審査委員3ポイント、発表者は5ポイントを有する。



#### ○審査委員紹介

加藤ばく：趣味はサッカー、ランニング

渡辺大祐：ほんのエキスパート 晴屋書店宿毛店 店長

矢野秀樹：宿毛青年会議所 理事長

### 1 筒井咲良 片島中学校3年 テニス部 書籍名：私ハマララ

- ・読んだきっかけ：母が図書館で借りてきたこと。2週間では読み切れず、この本を買ってもらった。
- ・中学校の人達に質問したい。勉強したいのに学校に行けないということが想像できますか。義務教育が無く、経済的な状況や、女性の地位が低いという環境。
- ・パキスタン 外出は夫と一緒にしなければならない制度、タリバンに女性の教育の権利を奪われている。

- ・ マララさん 必死に学校を作って運営していた。
- ・ 勇気がわいてくると共に、9年間教育が受けられることが当たり前と思っているけれど、当たり前ではない。
- ・ 最初のページには、「手のひらいっぱい元素記号」が書かれている写真がある。この写真を見て、教育を受けられない人がいることを知った。
- ・ 学校に行くことが出来ない人がいるということを知ったときに、自分たちの周りの状況、タリバンの状況。この本を読んでいなかったら、自分から学ぼうとすることはなかったと思う。
- ・ 自分で積極的に何かをすることを学んだ。
- ・ 頭を打たれた。女の子が教育が受けられるようにと、活動を続けている。私たちと同じ年頃なのに。

### 質問タイム

男性：お母さんはなぜその本を借りてきたと思いますか。どんな人に読んで欲しいと思いましたか。

A：母は、自分が読もうと思って借りてきた。中学生は物事に一番反応できるときなので、ぜひ読んでほしい。

渡部審査員：読んだあと、筒井さんの学校生活にどんな変化を起こしましたか。

A：学校に行くことが当たり前だと思っていた。自分は恵まれている。授業中に寝ていたりする人がいるけれど、しっかりと勉強しようと思います。

加藤審査員：最初のプレゼンで、一番緊張したと思います。途中で気持ちが高ぶったのは、緊張ですか、本の内容を思い出してですか。

A：一つの本と一つの鉛筆があれば世界は変わる。それを奪われても意識は変わる。権力や力で押さえようとしても、奪えないことを感じた。

## 2 佐竹萌 宿毛中学校2年 美術部 書籍名：人間失格

- ・ 変わったタイトルだけど、どんな内容だろう。本屋によって読んでみた。
- ・ 人は人として・・・ますます興味を持った。
- ・ 人と違う感覚を持ち、ただ笑っているだけ、最後はモルヒネ中毒となり、・・・昭和23年に連載された小説。最終話となる前に、作者の太宰治は自殺したので、・・・
- ・ 生きていくうえで学ぶべき作品だと思った。
- ・ 3つ
  - ・ お酒 大量に飲むと理性を失う。適量を心掛けようと思いました。
  - ・ 有害物質 適量など無く、100%有害である。自殺と薬物の影響、たばこも
  - ・ 人間関係 どんなに頭が良くても人間関係がダメだと墮落してしまう。
- ・ この主人公や作者のような人生を過ごしたくない。苦しいときなど、人と人のつながりを大切にしたいと思い、推薦します。

### 質問タイム

矢野審査員：出会えて良かった きっかけは題名が変わっていたからとのこと。3つの注意しなければいけないこと。人間関係など、今からいろいろな方と出会っていくと思う。人間関係に注意すること、今の中学校生活で、どんなことに注意したいと思いましたか。

A：友達関係、先生のことを、今以上に・・・

男性：今の時点で、尊敬できる人は何人かいますか。

A：家族、親、友達、知り合いとかに何人もいます。

### 3 畑中志緒理 三原中学校3年 ソフトテニス部 雑誌名：ニホンブンレツ

- ・西と東で日本が分かれることが想像できますか。そんな日本になるという本です。友達から進められて読みました。東と西の合いだに壁が出来、通信も出来ない状態。
- ・相手側のデタラメの情報を教えていたので、そんなことをやめさせたく先生になった。
- ・東にいる彼女のエミ エミのことを思って頑張れたのだと思う。
- ・「軍人として、戦え」との通知が来て、ひろふみ以外全滅してしまい、これなら東に行けると無茶なことをした。
- ・東に行けたが、すぐに捕まってしまう、東にいた父が階級が高かったので助かり
- ・エミは奴隷として働かされていた。毎日励まし、
- ・ひろふみは東の捜査員だとデマを流され
- ・意外な結末で目が離せられない。

男性：一番心に残ったところ、印象深かったところは何ですか。それが結末に関わる部分で話せないのなら、話さなくていいです。

A：ハッピーエンドではないけど、その中でもバッドエンドがあったので複雑な気持ちになりましたけど、良かった。

### 4 山陸梅花 宿毛中学校 美術部

#### 雑誌名：学年ビリのギャルが1年で偏差値を40上げて慶應大学に現役合格した話

- ・学習塾の から始まる。自分には絶対無理と思ってあきらめた夢はありませんか。
- ・人間にとって絶対無理と思っていたことへの体験。あなたにも出来る、あなたにも・・・
- ・巻頭に、子供や部下も同じこと、ダメな人なんていない。ダメな指導者がいるだけ。
- ・「おもしろい本があるので」と紹介され、読んだ。
- ・さやかさん 慶応 難関校の現役合格を目指す話。高校2年生にも関わらず、“ストロング”を“サンディ”と間違えるようなおもしろいエピソードが書かれている。
- ・夢のようなことで、学力が上がるのでないことがわかる。久保田さんの指導方法がある。しかし、なにより「あーちゃん」の存在がある。いくら一流大学を出ても何にもならないことを学び、それが「あーちゃん」の子育て論になる。
- ・世界一美人、頭のいい人でなくても、世界一幸せにならなくていい。
- ・あーちゃんの存在があったのでさやかさんは頑張れた。
- ・「やろうと思って出来ないことなんてない」 私はまだ、そんな体験をしたことがないが、何かに没頭が出来るということはすばらしいこと。

- ・大人でも、子供でも、男でも、女性でもそう感じる事が出来る本。

### 質問タイム

矢野審査員：やろうと思ったら出来ないことはない。今やろうと思っていることがあれば。

A：県展に出す絵 何か賞が取ればいいなあと思っています。

加藤審査員：学年ビリのギャルが合格をした秘訣は、どんなところにあったのか。

A：塾の先生と家族の支えがあって出来たと思うが、さやかさん自身の努力があったので。

### 5 黒田遙香 大月中学校3年 吹奏楽部 雑誌名：キノの旅

- ・主人公 言い間違いも多い、文句も多い、
- ・一番印象に残っていること 第1話「人の痛みがわかる」 対人恐怖症にみんながなってしまう、人が減ってってしまう。他人の痛みがわかると
- ・テレパシーがあると、伝えたくないことも伝わってしまう。
- ・短編集 1話完結 どこから読んでも楽しめる。是非、読んでください。

### 質問タイム

男性：この本を手にとったきっかけは。

A：図書館にあった本で、何気なく。巻頭に「世界は美しくなんかない。世界はあるだけで美しい」とある。

男性：具体的に、どのような人に読んでもらいたいと思いますか。

A：年齢を問わずいろいろな人に読んでもらいたい。

### 6 篠原菜那 橋上中学2年 雑誌名：おおかみこどもの雨と雪

- ・大学生の女の子が恋に落ちるところから始まる。彼は「おおかみ男」で、そのことを彼女に打ち分け、二人に子供が出来る。子供は人とおおかみ男の両面を持つ「おおかみこども」。
- ・彼は急死してしまうが、彼女は一生懸命子育てをし、助けてくれる人たちに、ここで生きていくことを決意。
- ・内気で消極的だったためか、山にうち解けるのに時間がかかった。
- ・子供が小学校にあがり、人の少女として振る舞うようになった。最初は学校を逃げ出したり、山に帰ってしまっていた。
- ・“雪”は普通の人間として、“雨”は狼として、二人は自分たちが選んだ生活をする。
- ・人と成長の暖かさを示した感動の話。私は最初映画で観たけれど、本で読んで、さらに、
- ・村人のぶっきらぼうだけれど、暖かみの感じられる・・・
- ・感動したのは、お母さんが「自分はあなたに何もしてあげられていない」との言葉に、「僕はもう大丈夫だよ。僕のことには心配しないで。お母さんありがとう」、そんなことを伝えたかったのだろう。
- ・「あなたは、あの時の泣き虫ではないんだね」 雨にとって、すばらしい時間になった。
- ・狼で生きていくか、人間で生きていくか、兄弟間の葛藤。

- ・早く父を亡くし、母が時には優しく、時には厳しく、母の姿に感動した。

### 質問タイム

渡部審査員：とても聞きやすかったです。花のようなお母さんになれると思いますか。

A：子供のために自分を犠牲にしていくような母になりたいとは思いません。

加藤審査員：グッときたシーン、感動したこと いろいろエピソードがあったと思う。この本を読んでこれからの生活とか、これからの行動がかわったことってありますか。

A：子供にとって親というのは一番尊敬できる存在だということがわかりました。

男性：映像を見た人もいると思います。映像より、本を読んで良かったと思いましたが。

A：本だと想像が膨らんでくるところが良かったと思います。

### 15:00~15:30 休憩

### 15:30~15:31 ルール説明

- ・5分で本の説明、2~3分の質問タイム。
- ・投票用紙 チャンプ本を 審査員3ポイント 見学者1ポイント 発表者5ポイント

## 7 松本憲洋 高島中学校3年 ソフトテニス部 書籍名：KAGEROU

- ・自分の命の値段について考えたことがありますか。感じ方は人それぞれでしょうが、数千万円、数億円・・・
- ・では、体の値段だと、臓器の機能だけだとしたら 皆さんもわかる人はいないと思います。
- ・いっそ死んでしまうのであれば、あなたの臓器を買わせてください。自殺志願者から臓器提供をしようとする組織の人間。
- ・借金ばかりで、親に何かを返したく2,680万円
- ・余命を宣告された彼女 心臓の提供者・自分が愛している人がいる世界で、一緒に生きていけない。
- ・カウントダウンの中で、
- ・好きな人を想像してみてください。その人のために自分の命を捧げられますか。考えてみてください。自分なら、自分の命を差し出せると思います。この本を読んでみて。
- ・出産の現場、葬式の間、命について考えたことは、人生において貴重だった。だから、多くの人にこの本を読んでもらいたい。
- ・最後まで読んでいただいたら、皆さんびっくりすると思います。

男性：最初は、「あなたは、そういう状況になったらどうしますか」と質問しようと思ったのだが、先に言われてしまった。松本君の大切な人は、今は誰ですか。

A：今は秘密です。

男性：本を読んで熱い気持ちを話されたが、読む前と読んだあと、自分はどう変わったのか、読んだ人にどう変わってもらいたいのか。

A：主人公は自殺志願者 主人公の目線から描かれているのは借金、リストラ、人間の信条が描かれていて、自殺する人は自殺する人なりに命のイメージが違う、人によって命のイメージが違うことがわかり、だから命を大切にしたい。

**8 高坂菜未 三原中学校2年 書籍名：走れ!T校バスケット部**

- ・松阪さんが作家デビューするきっかけになった1冊。バスケットを通じて仲間との大切さ、スポーツの楽しさの本。
- ・いじめに苦しめられ、T校に転校するところから始まる。
- ・どんなチームであっても、「和」があれば、
- ・勝敗にこだわりすぎると、汚い手を使う人がいるかもしれない。T校は仲間を信じ、最後まで戦うところが。
- ・汚い手を使って、勝つてもしょうがない。
- ・私はテニス部で日々練習しているが、汚い手を使って後悔することがないように、みんなとの仲間の和を大切にしていきたい。
- ・ミスをして、「仲間がおるけん大丈夫」という、そんな選手になりたい。
- ・仲間を信じ、そんな仲間と戦えられるので大丈夫。
- ・バスケットに興味がない人も、飽きずに最後まで読めると思います。
- ・仲間との和を大切に、仲間を信じて、最後まで戦うようにしたい。
- ・読書好きの友達がいる、この青い表紙に目を引かれたのがきっかけ。友達が進めてくれたのがきっかけ。

**質問タイム**

渡部審査員：仲間の和を大切にすることのイメージをするようになったとのことですが、試合の結果など、変化はありますか。

A：ミスをしたらガッカリするようなことがあったけれど、団体戦ではみんながいるので、みんなの顔を見て試合が出来るようになった。

男性：松崎さんのほかの本があれば紹介を。

A：この本も5巻まででているので、読んでみたいです。

**9 坂本未織さんは欠席です**

**10 小島阿未 橋上中学校1年 ソフトテニス部**

**書籍名：パーシージャクソンとオリンポスの神々盗まれた電撃**

- ・DVD屋さんでこの映画を見つけ、原作本があるということで読んだ。
- ・ポセイドンとの間に生まれたハーフの少年パーシーの話。
- ・自分が神様ポセイドンの子であることを知り、稲妻が盗まれていて、その犯人が自分だと思われることを知る。
- ・メデューサ
- ・前からギリシャ神話が好きだったので、おもしろかった。神様が使っているものがパーシーは

見える。

- ・神様になりたいけれど、いろいろなことをしないといけないので大変だと思った。
- ・一番好きなところは、従兄弟と戦うところ。いけないことをしていたら、従兄弟でも許してはいけない。

### 質問タイム

加藤審査員：この本以外にも本を読んでいると思うが、なぜ、今日の本を

A：身内でも許せないことを許さないということです。

加藤審査員：阿見さんは、そういう経験があったのですか。

A：経験はないけれど、自分もそういうことがあれば許せない。

女性：映画を見ておもしろいと思っても、原作まで読まない人が多いが、どうして原作を読もうと思いましたが。

A：神話が好きだったので、本意はもっといろいろなことが書いているかと思った。

男性：dvdにはない、本には書いてあることはどんなことがありましたか。

A：DVDと本はずいぶん違っている。本には神話のことを詳しく書いてある。

<b>11 増本健司 大月中学校1年 卓球部 書籍名：県庁おもてなし課</b>
---

- ・この話はフィクションですが、高知県庁に「おもてなし課」はあります。
- ・ありかわ 高知県の観光大使
- ・「地方が元気になるように」とのありかわさんのメッセージが書かれています。
- ・県庁のおもてなし課が出来たのが、観光立県を目指して、様々な企画を考えていくこと。
- ・ありかわさん 高知県以外の県のPRものっているの、ぜひ読んでみたいです。

### 質問タイム

男性：地域の良さ、地元の良さという言葉があったのですが、大月町の良いところは？

A：マグロの養殖をしていて、それを見に行くと良いなあと思いました。

渡部審査員：「こんな観光の仕事をしてみたいなあ」ということがありましたら教えてください。

A：わかりません。

矢野審査員：地方を元気に いろいろなプランがあるとのことですが、一番増本君が好きなプランは？

- ・「パンダ誘致論」です。

加藤審査員：高知県だったら、共感できる場所や納得できる場所があるとのことだったが、どんなところ？

A：高知県はいろんなPRをやっているのいい。

加藤審査員：この本を読む前とあとで高知県の印象はかわりましたか

A：わかりません。

**12 乾珠莉 宿毛中学校1年 書籍名：心のおくりびと**

- ・事故や災害で痛んだ遺体を生前の状態に戻す仕事です。遺族と心の絆を取り戻す仕事です。
- ・東日本大震災が起きた、小学校6年生の時に読んだ。地震のことを知りたくて本を探していてこの本を見つめた。
- ・たはられいこ 自分も頑張らなければと また、リアルにご遺体のことや仕事のことが書かれている。
- ・復元の 遺族の精神的なケア、納棺活動でボランティア活動を続けて。
- ・「がれきは宝の山です。ランドセル、生きてきた証が記録されたアルバム、・・・」 この言葉が何より心に突き刺さりました。
- ・ご遺体をきれいに復元することで、「やっと泣けた」と、ちゃんとした別れを出来るようにした。心のケアまで出来ることがすばらしいと思い、本のタイトルも「こころの送りびと」。
- ・心のケアについて考えるきっかけとなると思うので、是非読んでください。

**質問タイム**

女生徒：復元の仕事は知らなかったと思いますが、どうしてこの本を読もうと思ったのか。

A：東日本大震災で、地震のことを知りたくて本を探していてこの本を見つめた。

女生徒：

A：人を助ける仕事をしたいと思っている。

矢野審査員：誰かを助けるようなお仕事をしたいとのことで、今夢があれば教えて欲しい。

A：助産師をやりたいと思っている。

矢野審査員：頑張ってください。

加藤審査員：南海地震で活躍して欲しいとの言葉があったけれど、犠牲者が出ないように、この本にもいろいろな教訓が書かれているので、みんなで助かって欲しい。自分が頑張らないと思った本とのことだが、頑張らなければいけないことは、

A：中学生で、礼子さんをあこがれとして、日常生活で、部活や勉強を頑張っていきたい。

**13 中山夏実 小筑紫中学校2年 ソフトテニス部**

**書籍名：ぼくたちと駐在さんの700日戦争**

- ・この本を書いた人は、半分実話で、半分体験談で書いています。みなさんが思う良い高校生とはどんな高校生でしょうか。
- ・伝えたいポイントは3つ
  - ・高校生と駐在さんのいたずら合戦 やられたらやり直すこと
  - ・一番すごいいたずらは、雪合戦で駐在所の戸を壊してしまうこと。高校生がそんないたずらをするのか、そんないたずらをしてもいいのかなあ。
  - ・いつも駐在さんへのいたずらを考えている登場人物。一番の登場人物、駐在さん。



- ・最上くん 子供好きで仲間思い 生活のギャップが好きだと思い、
- ・いたずらが大半ですけど、感動的なストーリー、涙がでるよう笑えるストーリーもある。ロザリオのペンダントを探す。耳の聞こえないえりちゃん。
- ・いたずらはしたくないけど、いたずらをするのはちょっとは悪いけれど、自分のことを伝えることができる。
- ・この本が映画化もされていて有名な本ですが、自分で読んでみて良い本だと思ったので推薦しました。

### 質問タイム

男性：この本のことを知っています。社会問題、アクション、恋愛、など様々なことが書かれている本。中山さんが一番読んでもらいたいところは？

A：友情や仲間関係を皆さんに読んでもらいたい。

男性：僕、映画を見てまして、スピード違反取り締まりをママチャリで飛び込んでいくところとか好きですが、読もうとしたきっかけは？

A：後ろを読んでいて、おもしろいと思った。

男性：

A：挨拶もしてくれない高校生がいるけれど、自分のことを伝える高校生もいるんだなあと思いました。

渡部審査員：中山さんは中学1年生ですけど、どんな高校生活をしたと思いましたか。

A：自分のことを言える本当の友達や先生が出来、充実した高校生活を過ごしていきたい。

### 16:21～ 投票

### 16:35～ 発表

○審査員賞 2千円の図書カード 発表者：加藤審査員

高島中学校3年 筒井咲良 「私はマララ」

表彰理由：プレゼンも上手でよく練習されている、審査員も頭を悩ませた。リブリオバトルの「どの本を読みたくなったか」で選んだ。自分の言葉で、どんな本かが伝わったので受賞となった。

○チャンプ本 5千円の図書カード

グループA 宿毛中学校1年 山陸梅花

「学年ビリのギャルが1年で偏差値を40上げて慶應大学に現役合格した話」

グループB 小筑紫中学校2年 中山夏実 「ぼくたちと駐在さんの700日戦争」

矢野審査員：接戦でした。どの生徒さんも、しっかりと一つの本を人に伝える、難しいなあと聞かせていただいた。人に読んでもらいたいとお話しいただいた。やろうと思って出来ないことはない。本音で物事を言える人間になりたい。いろんな人に読んでもらいたい本を学校でもPRして欲しい。

山陸梅花：ビブリオバトルに出ようとは思っていなかったけれど、学校の先生に出ないかといわれ、賞が取れて良かったです。本がJIC文庫として寄贈されるので、この本がいろいろな人に知ってもらいたいと思う。ありがとうございます。

中山夏実：投票ありがとうございます。先生からビブリオバトルのことを聞き、本が好きなので出たいと思った。みんなが本音で話し合える中学校になれたらいいなと思う。

渡部審査員：

- ・発表お疲れさまでした。この緊張感が、今後の人生に貴重な経験となったと思う。
- ・「若者の本離れ」が言われ、今日はそんなことがないなあと、うれしく思った。
- ・読むきっかけはそれぞれだと思うが、たくさん本を読む機会をこれからもたくさん作って欲しい。そうすることで、これからの人生、考え方が変わったということが多くなると思う。
- ・本を読むことで、喜びがある。かとうたかこ 一瞬の風になれ 自分が読んだ本が受賞するといった喜びがあった。いろんな本を読んで欲しい。
- ・先日ある作家さんと話をした。 都会で電車の中で本を読む人が減った。携帯やスマホをいじって下を向いている。電車の中で本を読むかっこいい大人になって欲しい。

高田委員長：

- ・発表者の皆さん、お疲れさまでした。審査員、見学者のみなさま、ありがとうございました。
- ・本日、東京、奈良、京都、熊本でビブリオバトルやっている。5人ぐらいの小グループでやるものだけど、
- ・チャンプ本2冊、審査員賞の1冊、計3冊を図書室に寄贈します。

－ 以上 －

